



までこボックスに衣類を投入する松浦直子さん（左）

古着に「までこ」の心

軽米町 回収箱設置、利用PR

軽米町は27日、同町願った。

軽米の町役場町民ホールに古着回収箱「までこボックス」を設置した。町民から古着を集めて東南アジアなどで再利用（リユース）し、資源の有効活用とごみの減量を図る。

同日は「までこボックス」と命名した同町小軽米の会社員松浦直子さん（34）が最初の衣類を投入。「までこ」は同町の方言で「儉約し、つましいこと」を指し、松浦さんは「愛されるような名前を考えた。たくさんの町民に利用してほしい」と

願った。

町民が提供した古着は町が1キロ当たり2円で盛岡市の古着販売業ドンドンアップ（岡本昭史社長）に販売。同社はマレーシアの連携企業に輸出し、選別された上、タイやカンボジア、アフリカなど22カ国で再利用される。穴や汚れがあるなど古着として使えない物は、裁断して機械類を清掃する布切れなどとして活用する。

町役場の「までこボックス」に加え、町立図書館や保育園など町内9カ所にはプラスチック製のたるを設置する。

町町民生活課の福田浩司主任主査は「二戸管内の燃えるごみのうち48・83%は紙や衣類。衣類を減らすことが減量につながる」と利用を呼び掛ける。